

**科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
次世代研究者育成プログラム
(実施期間：平成 27～34 年度)**

コンソーシアム名：最先端融合科学イノベーション教育研究コンソーシアム

代表機関：東京大学（総括責任者：五神 真）

共同実施機関：東京工業大学、電気通信大学、早稲田大学、慶應義塾大学

取組の概要

世界をリードしてイノベーション創出するためには、次世代を担う研究人材の育成と確保が必要である。本コンソーシアムでは、分野や機関を超えた連携のもとで最先端研究に取り組んできた5大学によるナノ・マイクロ加工と光量子科学の研究連携体を核とし、組織を超えて平準化された制度と予算措置のもとで、個別の機関や部局による短期雇用を改め、流動性を高めつつ安定した雇用を実現する。この高い流動性、長期に安定雇用する仕組みのもと、新たな融合領域研究を生み出し、実践的な質の高い業績を積み上げ、キャリアアップを図る次世代研究者を育成する。同時に、共に研究活動を推進するポストドクターや博士課程学生に、異分野の出会いを促し、俯瞰力を持ち、多様な場で活躍できるよう様々な教育プログラムを提供し、グローバルに活躍できるイノベーション創出人材の育成を行う。研究者キャリアモデルを示し、研究者を目指す若者を増やす効果を高める。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (システム構築)	進捗状況 (取組の内容)	体制構築	今後の進め方
A	s	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

実績ある基盤の上にコンソーシアム5機関による人材育成プログラムが順調に構築され、成果をあげており、次世代研究者6名採用を前倒しで達成させている点は評価できる。多くの研究者がコンソーシアムに参画するようになり、コンソーシアムは質量共に発展していると認められる。次世代研究者には高度な実験施設の利用、多様な人的支援、研究に専念できる環境等が用意されており評価できる。イノベーション創出人材の育成については、国内外諸機関と連携した各種のインターンシップが実施されるなど、充実した内容となっていることは評価できる。今後は、5つの実施機関のより強い連携により、コンソーシアムが長期にわたり安定的に発展することを期待する。

・**進捗状況（全般）**：次世代研究者の育成については、採用が目標数を前倒しで達成しており、女性2名、外国人2名を含む多様な人材が採用されていることは高く評価できる。コンソーシアム構成研究室・参加者数は目標を超える規模となっており高く評価できる。次世代研究者の内、1名は既に常勤職に就いていることから着実なキャリアアップが図られており、評価できる。

・**進捗状況（システム構築）**：各大学での雇用形態はいずれも特任助教であり、年俸制を適用し、

流動性に配慮していることは評価できる。キャリアアップのための国際共同研究、国内外から研究者を招へいするセミナーが多彩に実施されており、次世代研究者がサマーキャンプのファシリテーターを務めるなどの活動が用意されていることは評価できる。しかしながら、次世代研究者のコンソーシアム全体での統一的なキャリア形成教育・研修などが十分でなく、その充実が期待される。

・**進捗状況（取組の内容）**：次世代研究者の育成については、Principal Investigator (PI)として最先端の研究環境、多様な支援のもとに高い研究エフォートを持って自立的に研究に従事していることは評価できる。しかしながら、国際公募等を行っているが、全体として応募者数が少なく、目的に沿った研究者が選考できたのか課題が残る。

イノベーション創出人材の育成については、これまでに58名の博士課程（後期）学生、ポストドクターが参加しており、多彩なプログラムへの参加から多様なキャリア形成に結びつく成果を得ていることは評価できる。また、インターンシップは国内外で企業、大学等と連携して実施されており評価できる。

・**体制構築**：代表機関の強いリーダーシップが発揮されており、代表機関、共同実施機関の代表者から構成される運営協議会が毎月開催されていることは、円滑な運営の点から評価できる。外部有識者から成るアドバイザーボードについても適切に機能しており評価できる。また、国際シンポジウムやドクターズキャリアフォーラムを開催していることから評価できる。

・**今後の進め方**：補助事業期間5年度目終了までの計画は妥当であり、次世代研究者のテニユアポジションへのキャリアアップを含めて、順調に推移すると期待できる。しかし補助終了後の期間においては、自己負担の少ない予算計画であり具体性に乏しい。また、一部の共同実施機関の全体への関与度合いが低く改善が必要である。